

家族形成に対して持家取得の意味

—日本と中国の比較

DAI Lianli

本論文の目的は、いずれも「持家(もちいえ)社会」である中国社会と日本社会において、家族形成に際しての住宅取得の意味を比較し、異なるところを考察することである。中国では建国以降、日本では戦後から、人々のライフコースに影響を与えるたくさんの社会変化が生じている。産業化による家族の変化もその一つである。本論文では、家族形成に影響する様々な要因のうち、住宅の取得に光を当てるものである。住宅とライフコースの間には深いかかわりがある。人々にとって住宅の取得は人生の中で一番大きな買い物であり、重要な意味を持っている。

本論文の研究クエスションは、家族形成に際しての住宅取得の「意味」が中国と日本でどう異なるのかを明らかにすることである。本論文の焦点は、結婚・出産といったライフコースにおいて住宅を取得することの意味にある。したがって、両国がこれまで持家社会になってきた経緯のほか、人々が住宅を买おうと考えるきっかけ、住宅を买う目的などについて、ライフイベントとの関係に基づき分析する。

本論文の構成は以下の通りである。

第一章では、中国の土地と住宅全般に関する制度および政策を詳細に述べる。建国から現在に渡り、法律の制定、住宅の種類や住宅購入資金の構成などの内容を中心にまとめる。また、土地の利用が無償から有償になるような政策の変化、改革開放以降の分配住宅から商品住宅へ変わるような法的構成の変化が、人々のライフコースへどういった影響を持ったのかについて論じる。そして、現在中国各地の住宅の値段、持家層を拡大するための住宅政策、地域ごとと年齢層別の持家率を分析する。

第二章では、日本が戦後から今まで経験してきた住宅政策を述べる。戦後から今に渡る持家政策—戦後の住宅政策三つの柱を詳説し、そして、日本の住宅ローンの種類と仕組みを分析する。最後に日本全国の持家率の推移と住宅取得者の年齢、また都道府県の持家率について

分析する。

第三章では、中国と日本それぞれの家族形成の動向を分析する。主に両国の初婚年齢の推移と晩婚化のデータを用いて分析する。

第四章では、住宅政策および住宅取得が家族のライフイベントと深く関係があることについての先行研究をまとめる。そのうえで、中国と日本それぞれの対象者に対するインタビューの調査内容と結果を分析し、結論を導く。

本稿の考察結果から指摘されるのは、中国と日本の女性についてみれば、持家の意味は根本的に異なっている。インタビュー調査によって明らかになったことは、中国での住宅取得は男性の経済力を証明する大きな役割があるということ、対して日本では住宅は主に結婚した後に取得されるものであり、そこで意識されていることは「子どものため」である。

まとめには、これまでに論じてきたことを総括する。それを踏まえて上で、残された問題点や今後の課題を挙げている。